

# あいあいあい I eye 愛

2017年

9月号



7/26 宮城県主催による、みやぎの環境にやさしい農産物認証・表示制度園芸研修会。  
特裁の野菜類栽培の取り組み拡大と定着が目的で、はさま自然村の露地圃場が視察先になった。

## 相互信頼による産直で 有機・農薬不使用栽培の拡大を

商品部 課長 吉武悠里

あいコープは創立当初から「環境保全型農業」の重要性を訴え、地元宮城県や近郊県を中心に提携産地の輪を築いてきました。先日、宮城県主催による「みやぎの環境にやさしい農産物認証・表示制度園芸研修会」に参加してきましたが、宮城県で特別栽培認証を取得している野菜の約60%の品目をあいコープの産直産地が占めている(日29・2月現在)ということ、あいコープが地域社会に果たしてきた役割を再確認することができました。

一方で、世界的にはネット通販大手のAmazonによるオーガニック市場への参入が話題になりました。2020年東京オリンピックに合わせて日本でも「有機」や「オーガニック」のブームを仕掛けようとする動きがあります。有機農産物に注目が集まり、その価値が消費者に広く認められるきっかけになるのであれば大いに歓迎したいと思います。入り口はどこにあるにしろ有機農産物市場の拡大は、持続可能な農業の土台となるでしょう。

あいコープは農薬使用の削減からさらに踏み込んで、「有機・

農業不使用栽培」の拡大を目指したいと考えています。まだまだ多くの課題がありますが、あいコープと産地が築き上げてきた「相互信頼による産直」という強みを生かして挑戦します。

8月からまなま通信の農産ベージに「農薬不使用・有機認証農産物」コーナーを設置することで、産地の努力がきちんと組合員に伝わるようにしました。

2018年中には「優ぶらんど」の次の目標を定めた新たな「あいコープ農産政策」を取りまとめますが、ベースとなる「優ぶらんど基準」から、さらに一段高い挑戦として「有機農産物比率」を高めていくための政策を掲げたいと考えています。

今後は宮城県内の若手生産者を中心に「有機・農薬不使用」の野菜作りへの挑戦を後押ししたいと考えています。生産者は生活をかけて挑戦します。技術や経験不足から時には失敗もあるかもしれませんが、そんなときも組合員の皆さまからのこれまでも以上のご支援、ご協力を何卒よろしく願っています。

### CONTENTS

- ▶ あいコープの農産品 …1
- ▶ 食材セットの開発を進めます …2
- ▶ あいコープ共生会石けん学習報告 …3
- ▶ 本物の生産者交流 …4-5
- ▶ 夏休み親子体験教室 …7
- ▶ 生産者さんにあいに行こう！ ひっぽ電力 …8

# 「食材セット」の開発を進めます！

「食材セット」の開発検討は2017年度の活動方針として提案され、議案書説明会や総代会で活発に議論された上、賛成多数で可決承認されました。そして、議論の中で出された意見に答えられるように丁寧な開発プロセスを踏みながら「開発を進める」ことが7月の理事会会で決定されました。今秋から試作品を試食していただくモニター調査を実施して、組合員の声に基づいて開発を進めます。



食材セットとは？

「食材セット」はカット野菜と肉(または魚)、調味タレがワンセットになっており、調理が簡単で時間短縮できるキット商品です。添付のレシピどおりに、具材をそのまま入れて、焼くだけ・煮るだけで出来上がります。忙しい方や、手作り初心者、高齢の方などへのお役立ち商品です。

開発のねらいは？

暮らしや仕事の変化に伴って、世の中では買ってそのまま食べられるお惣菜やお弁当がますます市場を広げています。家庭で調理する場面を減らさざるを得ない状況が、いつ誰に訪れるかわかりません。

そんな中でも私たちは安心の食材を使って家庭で手作りすることにこだわり続け、より多くの人があいこープ食材を利用できるようにしたいと考えます。またあいこープの産直品(野菜、肉、魚など)の消費量を増やすためにも、多様な供給チャンネルが求められています。

食材セットは「時間が無い」「調理がしんどい」「家族が減って使いきれない」…そんな人たちとあいこープの産直品とをつなぐための商品です。

あいこープの

食材セットの特色とは？

- ① **野菜**は産直野菜中心の国産でカット済み。洗浄殺菌は電解水で行い、塩素による殺菌は行わない。
- ② **肉・魚**はすべてあいこープで日々取り扱っている商品。必要な量だけをすぐに使える大きさにカットしてお届け。
- ③ **タレ・スープ**はこだわり派生協が共同開発した化学調味料・たんぱく加水分解物等不使用の特製品。
- ④ 本格メニューが誰でも簡単に、美味しく作れる**レシピ**つき。
- ⑤ 2〜3名分のメニューが中心。野菜を足せばボリュームアップ！

## 150名規模のモニター調査

「子育て世代」「共働き世帯」「シニア世代」「週五千円程度の平均的な利用金額」等に当てはまる150名の組合員モニターを選び、9〜11月、毎月1回試食していただきます。実際に調理して試食したモニターから、美味しさや使い勝手についての意見を集めて、開発を進めます。

## 新しいPB 手揚げ油揚げ開発中

菅野食品さんと開発した「あいこープの豆腐きぬ・もめん」がデビューしてから2年が経過しましたが、その美味しさが評価されて毎週多くの組合員にご利用いただいています。次はこの美味しいお豆腐を揚げた油揚げの開発が課題でした。

今年度に入ってから開発に着手し、菅野食品と試作・試食を繰り返してきました。厚さ、風味、生地の油加減、しっとり感のいずれも高評価のものに仕上がりがつあります。11月デビューの予定で、10月29日のWa! わあ祭りではデビュー直前の試食会を企画しています。お楽しみに！



## 共生会石けん学習会報告

# 生産現場や生活の中で石けんを広めます



7月29日土曜日あいあいファームわ・は・わ田尻の今福ルームで、共生会石けん学習会を生産者14名、生協3名の計17名の参加で開催しました。

あいコープと提携している生産者・業者の組織である共生会は、その活動方針に石けん運動への参加を掲げています。今年度の方針でも生産と生活の両面で「石けん生活を実践する」ことが謳われています。水環境を守ることは安全安心な食材の生産には不可欠であり、昨今では洗剤・柔軟剤の香料による健康被害も広がっており、あいコープ組合員と共に歩む共生会会員としても、石けん運動への理解と参加がますます求められているため、会員の中で石けん生活を広げていくことを目指して石けん学習会が企画されました。

学習会前半は太陽油脂の堀清貴さんから石けんと合成洗剤の違い、石けんが汚れを落とす仕組みを実験を交えながら教わりました。後半は換気扇フードの油污れや衣類の洗濯、酸素系漂白剤による茶渋落とし、そして洗髪と様々な実演で使い方を学びました。

学習会終了後、みそカフェと焼肉、みどり会のおにぎりでランチを頂きながら各自が学習会の感想を発表しあいました。そして各自の使った食器をリサイクル石けん「さいかち」を使って自分で洗いました。今回の共生会石けん学習会は、鎌田常太郎幹事が企画立案から堀さんとの打ち合わせ、会場下見に当日の司会進行まで担当しての大活躍でした。これを第一歩に、共生会会員の生産の現場や生活の中でも石けん運動を広げていきます。



はじめに石鹸について基礎知識の講義を受け、後半は使い方を体験学習しました。

40℃のお湯で予洗いする事や十分に泡立てることなどポイントを押さえればしっかりと汚れを落とす事が出来ることを確認し、生活の中や生産現場で有効に活用するヒントをたくさん頂くことができました。日本の水は主に軟水なので石けんが有効に使える環境であることは、世界的に見て決して当たり前では無いということ、改めて循環可能な石けんの価値と使うことの意味を確認し、共有出来た大変有意義な学習会になったのではないかと思います。

ご協力いただきました太陽油脂の堀さん、あいコープみやぎ副理事長の高野さん、田尻あいあいファームの白鳥さんはじめ参加して頂いた生産者の皆様には改めまして感謝申し上げます。

あいコープ共生会

幹事 鎌田常太郎

## 今日からあなたも石けんの達人

粉石けん水ばしよう編



7月19日、石けん学習会をエルパーク仙台でエスケー石鹸の小林衛さんを講師にお招きして開催しました。今回は、8月から粉せつけん「水ばしよう」の製造メーカーがエスケー石鹸さんに替わるので、特に粉石けんを使った洗濯の仕方のコツを教えていただきました。

粉石けんは液体石けんよりも石けん分が高いため高い洗浄力があり、洗いがりが柔らかいです。使い方のコツはしっかりと泡立てること、粉石けんの使用量を守ること、しっかりとすすぐことです。気になる石けんカスを防ぐには、洗濯物を容量の7割程度におさえ、最後のすすぎにクエン酸を少量加えるとすすき洗いあがるということを教えてくださいました。ほかにも、石けんの歴史やハミガキについて、シャンプーの仕方についても詳しく伺うことができました。

参加者からは、「挫折して使っていなかったのですが、また粉石けんを使います!」「石けんと合成洗剤の違いが詳しく伺えました。フッ素について信念・情熱をも感じるお話伺えて良かったです。」「石けんを使い続けるので、石けん作りを続けてください!」という応援メッセージなどもいただきました。



七郷コロボ畑 ネギの定植を教える細谷さん



日向養豚 生まれたての子豚を抱き上げる濱田さん



大郷みどり会 お手伝いのご褒美で田植え機に乗せてくれる西塚さん



米沢郷牧場 自家製飼料の説明をする伊藤さん



米沢郷牧場 大切な交流のひととき

### 生産者交流報告

体験だけじゃない。組合員も生産者も、一緒に学んで一緒に考える。

# あいコープには本物の『生産者交流』があります

今年はいち地区委員会が地元生産者と交流を重ね、生産者とその商品の魅力の理解を深めています。あいコープの生産者交流は、単なる「産地訪問ツアー」や「農業体験イベント」とは大きく異なります。与えられたパッケージ企画ではなく、組合員と生産者がともに考え、何をどう作るべきか、何をどう食べるべきかを話し合いながら進められています。時には組合員が自ら事前学習をして臨む場合もあります。そうして商品とその作り手を深く理解していくのです。さて、今年はいち地区委員会が行われているのでしょうか。

## ◆「コロボ畑で野菜づくり」を体験する

### しおさい地区&大郷みどり会



さつま芋畑の草取り

交流は大郷町の事務所に向いて打ち合わせをすることから始め、5月末には田植えとさつま芋の苗の定植をしました。田植えでは15m四方の田んぼに手植えをしました。さつま芋を植えた畑は、しおさい地区が大郷みどり会から託された圃場です。7月に入ってから除草作業もしています。雑草がさつま芋の葉にあたる日光を遮ったり、栄養を取ったりしないように、除草しておくのが大切とのこと。1mほどに成長した雑草もあり、鎌を使わなければならないものもあります。学校のプール2つほどの広さの為、地区委員の手作業ではなかなか捗らない除草作業ですが、秋にたくさん収穫できるように、できるだけ、足を運びたいと思います。

理事 阿部麻利子

## ◆交流の意味を理解する

### 泉B地区&米沢郷牧場

7/22



BMWプラント見学

「おいしい鶏肉！」の米沢郷牧場の鶏舎は、なんと道の駅の向かい側にあります。全くとなくハエもとんでいませぬ！薬を使わず、健康に育てているからこそなのだと、米沢郷牧場の鶏肉のおいしさと安心の秘密がわかりました。また、BMWプラントや鶏糞での堆肥作り、自家飼料工場などの施設を見学させていただきました。地域循環型農業の取り組みを詳しく知ることができました。

伊藤代表のお話で、「このような組合員との交流は自分たちが取り組んでいくうえでのモチベーションになる」というお話がありました。直接会ってお話することで、安全・安心なものを食べさせたいという思いがより高まるということだそうです。ご苦労がありながら薬に頼らず生産して頂いていることに感謝して、おいしく食べて応援していきたいです。今後も定期的に交流を続けていきたいです。

理事 原子良恵

## ◆「コロボ畑で野菜づくり」を体験する

### 若林地区&七郷みつば会

圃場の一部をお借りして、畑作業体験をしています。6月中旬から大根、ニンジン、ネギ、枝豆の播種や定植をはじめ、随時草取りや収穫を行っています。七郷みつば会代表の細谷さんのご厚意で、コロボ畑を示す看板が立てられています。仙台市内に畑があるため、組合員が度々訪れては様子を見たり作業を行ったりしていますが、毎日畑に通うのは難しく、除草や収穫のタイミングに合わせての作業には至っていません。自分たちで体験してみたい、生産者の皆さんの日々の努力を痛感しています。

理事 成澤菜穂子

## ◆作り手の愛情を知る

### 宮城野地区&日向養豚

7/26



コロボ畑以外の農作業もお手伝い

畑の横には津波の避難タワーが経っている

親子で『じもとん』でおなじみの日向養豚を訪れました。3年前に流行したPED（豚流行性下痢）以降、見学は受け入れていなかったそうですが、今回は日向さんのご厚意で実現しました。病原菌を持ち込まない対策として、大人も子供も足カバーを付けての見学です。じもとの美味しさの秘密は『品種』『えさ』『飼い方』の3つ。中でも『飼い方』は、昔の畜産は農家経営の一部として地域循環で行われていたが、今は大量に生産するために企業的に行われているとのこと。しかし、日向さんは密飼いをしないこと、家族のように接することを大切にしているそうです。実際に日向さんのお話を聴き、豚に触れてみて、日向養豚のみなさんのあたたかい愛情を感じることが出来ました。

理事 太田代一世



全員足カバーを装着

## 報告 ハンガーフリーワールド 書き損じハガキ回収率2位

あいコープは、NPO 法人ハンガー・フリー・ワールドが実施している『書き損じハガキ回収キャンペーン』に毎年参加しています。2016年12月1日～17年5月31日の間にあいコープから回収された書き損じハガキなどは567,049円相当で、返率は取り組んだ46の生協の中で、第2位(4.95%)となりました。これは全国平均(2.13%)の倍以上で、かなり高い返率です。あいコープの返率は毎年全国1～2位の高さに、組合員の社会問題への意識の高さがうかがえます。



### 書き損じハガキ 回収キャンペーン

ハガキ1枚で おかゆ1杯に

## 畜産について考える ③ 薬剤投与

輸入肉や市販肉の多くには、「ホルモン剤」や「抗生物質」が多用されています。ホルモン剤は肉質を柔らかくしたり、搾乳量を増やすなどの目的で使用され、投与された成長ホルモンの一部は食肉の中に残り、私たちの体の中へと取り込まれることになります。また、低価格を追求するために密飼、病気になれば全体に広がることから、病気予防のため、あらかじめ抗生物質や合成抗菌剤が頻りに投与され、飼料としても与えられています。食肉への残留による、アレルギーや発達障害などへの影響も懸念されています。また、世界保健機関(WHO)の専門家は「抗生物質を多用することで抗生物質が効かない耐性菌が出現させる恐れがある」と警告を出しています。

安価なものには必ず訳があります。価格や謳い文句に目を奪われるのではなく、商品の本当の「価値」に目を向けてみませんか？



おだいのたねまき



誰もが安心して

暮らせる社会を

「ゆうあんどあい」と「ラボ企画」

## ホリデイ・キッズ倶楽部を開催



初日には社協の方も見学に訪れました。

イムやおやつも提供しました。昼食はあいコープみやぎの食材を提供し、栄養士さんが考えたメニューで、何回もおかわりし、お腹いっぱい食べたお子さんもいました。初日には皆パスちゃん牛乳のおいしさに驚いたそうです。

夏休み中の水曜日計4回、NPO法人「ゆうあんどあい」とあいコープみやぎが主催した「ホリデイ・キッズ倶楽部」が宮城野区原町のゆうあんどあい（ふれあいサロン）はらのまちで開催されました。これは夏休みの日中を一人で過ごしている小学生の居場所作りの企画です。「ゆうあんどあい」は原町小学校のすぐ近くに位置し小学校との関わりを持っていましたが、普段は訪問介護やサロン活動がメインで、子育て支援子どもたちのサポート企画は初めての取り組みです。

毎回午前10時から午後4時まで、「ゆうあんどあい」の職員に数名のボランティアさんが加わり、子ども達と夏休みの宿題に取り組んだり、遊んだりしながら過ごしました。楽しいランチタ



添加物だけでソフトドリンクのできあがり！

午後のレクリエーションでは、ベイブレード作りやトランプをしたり、「ジュース」作りをして添加物について学んだりしました。ベイブレード作りでは個性を發揮し、自分だけのベイブレードを集中して楽しそうに作っている姿が印象的でした。今回は企画段階から「ゆうあんどあい」と協働することが出来ました。地域の中で安心して過ごせるような小規模でアットホームな場を増やしていければ良いなと感じました。

ジュイケア担当理事 三浦一枝



まんま通信のあるくらし

## 夏休み親子体験教室

### 添加物でジュース作っちゃった



らゆる加工食品や飲み物に含まれています。その原材料は遺伝子組み換え食品の可能性もあるそうです。

また、香りの元となる香料は約4000種類あり、何種類使っても「香料」と表示するだけでよいことになっています。消費者には具体的に何が使われているのかわからないのです。子どもに与えるもの、しっかりと原材料表示を確認し、わかって食べたり、飲んだりするようにしたいと思います。今後子どもにもわかりやすい企画を開催したいです。

しおさい地区委員 星歩

7/25 (火) しおさい地区 企画報告

理事会議事録抄

2017年8月1日(火)

▼「秋のフォーラム2017」企画書を承認した。▼「みんなであい」はん2017」企画書を承認した。▼Wa!わあ祭りを承認した。▼実行委員会からの報告と提案事項を承認した。▼「遺伝子組み換えルーレット」鑑賞会企画書を承認した。

▼新PB手揚げ油揚げ(菅野食品)試作品がほぼ完成に至ったこと、11月デビューとすることを確認した。▼食材セツト開発へ向けて、試作品のモニタリングを9〜11月に実施することを確認した。

### ジュースの定義

現在 JAS 法で「ジュースは果汁100%」と定められていますが、無果汁のものも含めて清涼飲料水一般を指してジュースという言葉が広く使われています。かつては法律上の定義がなかったために商品名になんでもかんでもジュースとつけて売っていたのに対して消費者団体が不良ジュース追放運動を展開して1967年にJAS法を改正させ法律で果汁100%と定義させたそうです。

### 組織概要

(2017年7月分)

【組合員数】	13,490名
【供給高】	189,646千円
【一人実利用高】	5,412円/週
【出資金】	1,113,526千円



● あいコープの食材って、新鮮で美味しい。

しおさい地区 武藤さつき

「布おむつっていいよ」「を広めたい



7/13 布おむつ談議

みなさんは以前、「布おむつの会」があったのをご存知ですか？布おむつで育児をする組合員さん達が集まって、交流や、情報共有をしたり、「布おむつ談議」を企画して布おむつの良さを広めると共に、「同じあいこープで子育てしている仲間作り」の活動をしてきました。その意思を受け継いで、この度新たなメンバーで会が発足しました。

や洗い方について自由にグループトークしました。後半は、太陽油脂の堀清貴さんから布おむつの汚れの落とし方について石けんメーカーならではの対処法を教えてくださいました。

また7月17日には結婚式場「パレスいあん」の子育てイベントに出展し、赤ちゃん人形に布おむつを付けてもらう体験や、おむつの洗い方をパネルで紹介しました。参加者の多くはこれからママ・パパになる方で、積極的に布おむつ替えに挑戦していました。

今後も「布おむつ談議」開催や楽しい企画を考えています。親子で遊びにきて下さい。

理事 安部有理



7/17 子育てイベント  
パパが布おむつにチャレンジ



私たちが泉エリア担当です



いつもお世話になっております。泉 AB エリアリーダーの相澤卓也です。

泉チームは、若手だと19歳、ベテランだとそれなりの年齢で構成されたチームです。年齢はバラバラですが、お互い困ったときは助け合い、良い所を吸収し、徐々にですがチームとして成長しています。これからも泉チームを温かく見守ってください!!

泉エリア 相澤卓也

編集後記

9月号の校了日も雨雲が空を覆い、お日様を拝めませんでした。こうなると記録的な長雨が稲の生育に悪影響が出ないか心配になります。冷夏で思い出すのは1993年の米不足。一時は店頭から米が消えて大騒ぎでした。この不作の背景には天候不順だけではなく減反政策が招いた農の現場の弱体化があるとの指摘もありました。あれから24年、日本の農業は「冷夏」に耐える力を維持しているのでしょうか？商品部の話によると、8月最後の一週間で天気が回復すれば今年は何んとか生育も持ち直すことが出来るそうとのこと。

広報担当職員 豊嶋馨

●機関紙あいあいあいのご意見・ご感想

組合員番号、氏名、電話番号をお書きの上、配送もしくはFAX (022-284-6973) にて、あいこープみやぎ理事会へ広報宛にお送り下さい。

組合員の皆さんの『つづやき』も大募集中！

組合員が利用できる電話相談

- 9/12 年金相談
9/12 法律相談
9/15 思春期相談
9/19 子ども相談
9/19 ぐらしの相談

お申込み・お問合せはジョイケア事務局へ



022

284-7277

平日 9:00~17:00

電話相談について

- 各相談窓口前週の金曜日までに予約して下さい。
随時受け付け可能です。
予約して頂いた方には、相談日に相談員からお電話を差し上げます。

ジョイケア利用状況 (2017年6月分)

Table with 2 columns: Service type and Number of cases. Includes rows for insurance, childcare, and phone consultations.

ジョイケア NEWS

ジョイケアシステムは、あいこープみやぎ独自の地域福祉政策で、組合員全員の拠出金(100円/月)によって成り立っている助け合いの仕組みです。

個人で利用できるサービス(ささえあい/たすけあい/集団託児/慶弔・出産/電話相談)もあり、組合員同士の助け合いやケアメイトによる集団託児なども多く利用されています。



●あいこープは食品に関するだけでなく環境問題にも長い事取り組んでいて、いい。

太白地区 氏家泰子

# 生産者さんに「あい」に行こう!⑩ ひっぼ電力の巻

## 原発事故によって受けた大打撃に対し 再生可能エネルギー事業で反旗を翻したい!



脱原発エネルギーシフト委員会は、福島第一原発事故のダメージを跳ね返すために宮城県丸森町で立ち上げられた「ひっぼ電力」に注目し、これまで応援してきました。10月から始まるあいコープの電力小売り事業によって、私たちは発電産地の一つとして、ひっぼ電力の電気を買うようになります。

ひっぼ電力は再生可能エネルギー事業を軸にして過疎化する地域をどうにかしたいという思いを込めた「再エネ村」構想を掲げています。養蚕が盛んだった筆甫地区ですが、時代とともに衰退し耕作放棄地が増えています。次の太陽光発電パネル設置の予定地も、昔は桑畑だったとのこと。その地主さんは「ただ荒らしておくよりはひっぼ電力さんに使ってもらった方が地域のためだと思います。」と話していました。原発に頼らない電気を私たちが選ぶことによって、ひっぼ電力が今後も電気を作り続け、発電設備も拡大すれば、地域で産業が育ち、雇用が生まれ、再エネを軸にした「再エネ村」の実現につながります。原子力や石炭火力などに頼らないエネルギーシフトを、筆甫地区で実現すれば筆甫から全国へ、筆甫から世界に向けたメッセージになる事でしょう。



元は桑畑だった発電所建設予定地



パネル設置イベント 2016年7月



パネルの裏側には応援メッセージが



筆甫地区のバルシステムでんき説明会



ひっぼ電力  
代表 目黒忠七さん

ひっぼ電力の所在地は福島県に隣接し、あの飯舘村から約10km、一番近い所はわずか2kmの距離です。以前は農林業で生計を立てておりましたが、異常なまでの農林産物の価格低迷にあえいでおり、以前より関心がありました。再エネ事業に取り組みました。あいコープの皆様からも暖かいご支援をいただき、大きな励みになり1号機は順調に発電しております。さらに今後14か所の設置を進め、来年中には全て稼働する見通しがついております。今後は電気も自給自足の生活を目指し、皆さんとともに安心して生活できる環境を子孫に残したいと考えます、今後ともよろしく願います。

### Calendar \*今後のイベント\*

9/9 土

石けん環境委員会  
環境学習会

自分の目で見る海の汚染

講演/ 高田秀重氏  
東京農工大学農学部環境資源科学科教授  
場所/ 国際村セミナー室 菖蒲田海岸  
時間/ 10:00~12:00 参加費/100円

9/26 火

宮城県生協連

消費者のくらしと権利を守る  
第38回宮城県生協組合員集会

場所/ 東京エレクトロンホール宮城 大ホール  
時間/ 10:00~12:00 参加費/無料

9/12 火

あいあいあい編集部

バナナ学習会  
知りたくなかったバナナの正体  
~フィリピンバナナと私たち~

場所/ 日立システムズホール仙台 エックホール  
時間/ 10:00~12:30 参加費/無料

10/29 日

2017  
Wa!わあ祭り

場所/ サンフェスタ  
仙台卸商センター産業見本市会館  
時間/ 10:00~14:00

### 仙台パワーステーション 操業差止訴訟について

仙台パワーステーション(石炭火力発電所)はこれまでの市民による反対申し入れにも関わらず、6月には試運転を開始し、8月7日からは出力を100%に上げました。これに対し、「仙台パワーステーション操業差止訴訟原告団」が立ち上がり、訴訟の準備が始まっています。この原告団は、仙台市およびその周辺にお住まいの方に、原告としての裁判参加を呼び掛けています。



原告募集締切: 9月10日(日)

問い合わせ・連絡先

仙台港の石炭火力発電所建設問題を考える会  
共同代表: 長谷川公一(東北大学教授)

明日香壽川(東北大学教授)

TEL: 022-795-7557(明日香研究室)

Web: <https://sendaisekitan.wordpress.com>